

三重県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究

研究分担者：丸山 貴也（国立病院機構三重病院 呼吸器内科）

研究要旨 人口ベースで成人における侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）、侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）、激症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）を評価する体制を構築することで、IHD、IPD、STSSの罹患率が算定でき、また、IPDの莢膜型の推移を調査することで肺炎球菌ワクチンの有効性を評価し、より適切な予防医療を確立することができる。

A. 研究目的

1. 三重県の実医療機関で発症した成人のIPD、IHD、STSSを評価する体制を構築する。
2. IPD、IHD、STSSと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、国立感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する。

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関9施設+1施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。

（倫理面への配慮）

本研究では、必要な検体は、研究参加前に採取、

保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

平成28年度の三重県在住者のIPDは11例であった。IPDの特徴は平均年齢69歳で、男性の頻度が63.6%と高く、莢膜型は3（27.3%）、6B（27.3%）、23A（27.3%）の頻度が高く、肺炎球菌ワクチンのカバー率はPCV13 vs PPSV23=54.5% vs 72.7%であった（図1）。

D. 考察

小児に対するPCVが導入（2010年PVC7、2013年PCV13）前、PPSV23のカバー率は約80%、PCV13では約70%と報告されている。三重県の2016年の結果はPCV13（54.5%）、PPSV23（72.7%）

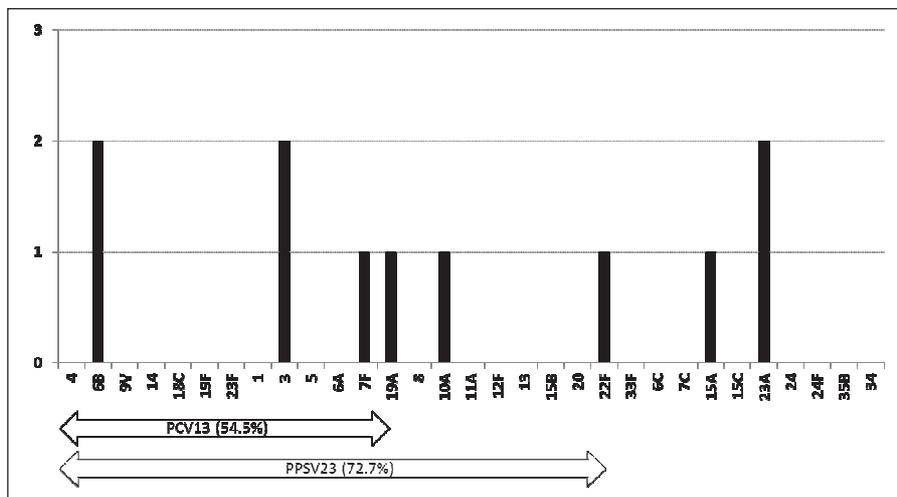


図1 三重県の成人IPDの莢膜型と肺炎球菌のワクチンのカバー率（n=11）

で、2015年PCV13（52.4%）、PPSV23（76.2%）、2014年PCV13（46.7%）、PPSV23（60%）と比較し、低下は認められなかった。

E. 結論

今年度の三重県のIPDは前年度22例と比較し、11例と少なかったが、小児PCV13の影響や、PPSV23の定期接種の影響ではなく、保健環境研究所の担当者の人事の影響で菌株収集が徹底されていなかったことが一因であった。研究体制の再構築をし、次年度は症例数の増加が予想される。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 丸山貴也.【呼吸器感染症update 2016】肺炎効果的な予防策の種類と実践法, Mebio, 33巻4号, 49-55, 2016.
- 2) 丸山貴也.【肺炎球菌感染症の今日的話題】肺炎球菌ワクチン 多糖体型ワクチン, 臨床と微生物, 43巻4号, 335-340, 2016.
- 3) 丸山貴也.【肺炎球菌を予防する最新戦略】肺炎球菌ワクチンの新展開 これからの肺炎球菌ワクチン接種指針 適切で効果的な接種方法とは, 感染と抗菌薬, 19巻3号, 207-214, 2016.

4) 二木芳人, 川上和義, 丸山貴也, 池松秀之, 青木洋介, 渡邊 浩. 日本内科学会成人予防接種検討ワーキンググループ成人予防接種のガイドンス 2016年改訂版(解説), 日本内科学会雑誌, 105巻8号, 1472-1488, 2016.

5) 丸山貴也.【肺炎の現状と管理】肺炎の予防戦略, 化学療法の領域, 32巻12号, 2219-2227, 2016.

2. 学会発表

- 1) 丸山貴也. 呼吸器感染症病原体で広がる薬剤耐性と臨床へのインパクト医療介護 関連肺炎の治療戦略, 第56回日本呼吸器学会学術講演会
- 2) 丸山貴也. 小児・成人ワクチンの新たな動向肺炎球菌ワクチン, 第90回日本感染症学会総会・学術講演会
- 3) 新しい肺炎診療ガイドラインについて 肺炎の予防, 第56回日本呼吸器学会学術講演会

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし